

# 訪問看護師って不安がいっぱい！！ でもね、やりがいもいっぱい！！

before



1人は不安

オンコールがある

土日当番がある

幅広い技術がない

コミュニケーションが苦手

距離感がわからない

after



今、求められている

土日休み

信頼され頼られる

やりがいを感じる

患者様と深く関われる

給与が高い

生活に密着したサービスが提供できる

家族を含めたケアができる

1人で動ける

日々、看護の品質が上がる

その方の人生から学べ、人として成長できる

達成感が大きい

幅広い看護が身に付く

サービス内容が濃い

## 訪問看護をやってみたら、看護師の原点が見えた

訪問看護について、不安や疑問をお持ちの看護師は多いと思います。

でも、実際に訪問看護に携わってみると、看護師の原点がここにあるように思います。

患者様に向き合い、ご家族や他の専門職と一緒にその方に合った療養生活を支えていく。正しく、看護師の原点である「寄り添う」ことが求められます。

病棟の看護に慣れてしまうと、設備もなく、専門職もない中での看護に不安を抱かれる方が多いのも事実です。しかし、設備は工夫次第で何とでもなります。自分一人でケアしているような気にもなりますが、実は意外と多くの専門職が関り、チームでケアしていることがわかります。

ここには、皆さん看護師が看護師になろうと思った動機、モチベーションを満たしてくれるものがあります。多忙な病棟看護で忘れかけていた看護の原点があります。そして、ここに身を置くことは、看護師として成長することは勿論、人間としても成長することができます。

上の図のように最初の不安は、その後のメリットに比べれば小さなものです。確かに慣れるまでは大変です。でも、慣れるまでは同行訪問を行いますし、同僚、先輩に聞ける環境も整っています。

さあ、思い切って飛び込んでください。私達みんなが支え寄り添います。



## 私たちが訪問看護師である理由・・・その1

訪問看護ステーション主任（8年目）  
山崎 欣実

最初は不安もありました。でも、やってみるとその不安はすぐに消えました。自分の成長に繋がることがたくさんあり、看護力が向上していくことを日々感じられます。何よりもやりがいがあり、不安な気持ちはすぐに消え去りました。

私が一番強く感じたことは、利用者様とじっくり関わる事で、自身の価値感を、その利用者さんを通して見つめ直す事ができることです。まずは、己を知り、自身の考えは置いておいて、その人に寄り添う…。そして、その人がその人のスピードで変化していく様子を間近で見ることができる。その人の生活環境を知る事で、その人らしい生活に合わせた看護ができる。とてもやりがいのある仕事です。だからこそ、もう訪問看護は辞められません。

超高齢化社会となり、病院から在宅へ地域包括ケアシステムを推進している中、訪問看護師の役割や必要性が、今、とても強く求められています。地域で生活する皆様、その家族に安心と笑顔を届けられるよう、これからも訪問看護師であり続けたいと思います。



## 私たちが訪問看護師である理由・・・その2

訪問看護ステーション看護師（3年目）  
神谷 美香

病棟の看護師をやっていて、日々、新たな入院患者さんが来られる一方で、受持ちの患者さんが退院されていきます。高齢の患者様が多く、完全に治癒されて退院される方は極わずかです。大半の患者様は在宅での療養が続きます。在宅でどのように暮らしていらっしゃるのだろう。病院では、長い療養生活のほんの一部にしか関わられません。在宅での療養生活をサポートして支えていきたい。その思いが日に日に強くなりました。自分にできるのだろうかといった不安はあったけれど、思い切って訪問看護ステーションに飛び込んでみました。いざやってみると、不安はすぐに消え去りました。

困ったときは、訪問診療の医師に相談したり、同僚や先輩に相談できる環境が整っていました。一人だけじゃない。チームでケアしているのだと強く感じました。そして、訪問看護はただの看護じゃない、その方の人生や生活そのものに向き合うことだと知りました。とても大きなやりがいを感じています。そして、日々、看護師としても人間としても成長する自分を感じることができました。



## 私たちが訪問看護師である理由・・・その3

訪問看護ステーション看護師（4年目）  
西口 京子

病棟看護師になって、決まった時間内に決められたルーチンを熟さなくてはならず、あわただしい日々が続いていました。自分は患者様に寄り添う看護がしたくて看護師になったけれど、それが実践できていないことに悩むようになりました。

そんな時に、自院の訪問看護ステーションの短期研修に行くことになりました。初めての経験で戸惑いも多く、先輩のケアを見ているだけで何をしたらいいのか、さっぱりわかりませんでした。ご自宅でのケアですから病院の様な設備もなく、それぞれ違う環境で療養されている様子です。それぞれの環境にあったケアを何の躊躇もなくこなされる先輩看護師を、ただただ感心して見ているだけの日々が続きました。でも、慣れてくると、その方に合ったやり方でやればいんだ、決まったやり方はないんだということに気づきました。そして、その方に合ったやり方とは、その方と話したり、様子を見て試行錯誤したらよいのだと気づきました。そこに気づくと、訪問看護に抱いていた不安感がなくなりました。そして、そうすることがその方に寄り添う看護になるんだと思いました。自分がやりたかった寄り添う看護に出会った気がしました。

そこで思い切って上司に相談して、訪問看護ステーションに異動させていただきました。自分がやりたかった寄り添う看護が実践できて、日々充実した看護ができて満足しています。